土樹和のハウスサポート誌

2012/5/17発行

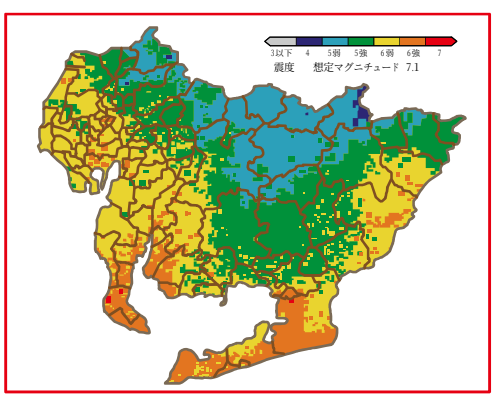
地震被害予想が各地で変更されてます！

様々な事が「**想定外**」という言葉で言い訳が繰り返された東日本の大震災以降、これからの災害予想や人災予想には、もう想定外は許されない状況になっています。

そのような中、自治体などが公表している、「災害時の被害予想」や、「震度」「津波」等の予想がことごとく見直され始めています。どんなに科学が発達しても、宇宙から地球を見れるようになっても、**台風を止める事が無理なように、ありえない事が起きることが天災です。**

たかが数十年何事も無かったからと言って未来永劫大丈夫な保証はありません。後で後悔するよりは、今できることを家族の全員で考えておきたいと思います。

東海・東南海連動地震の場合は
愛知県の山間を除く、ほとんどの
地域が震度6弱以上に！



無料診断実施中!

建物が倒壊すれば建替えに・・・何千万
事前に耐震補強しておけば・・・数百万
共に大きな数字ではありますが、災害
後に後悔しない為にも、今できる事を!

例え、今すぐできる事がなくとも、自宅の現状を把握しておくことが大事です。
瓦屋根か板金屋根か、、、落下の危険性を把握。
壁の多い少ない確認、、、どこの部屋がより安全か。
沿岸部なら、より高台はどこか。自宅周辺は液状化するのか、、、自治体確認。
などなど、できる事はたくさん有ります!

エネルギー対策は変革期を迎えるのか？

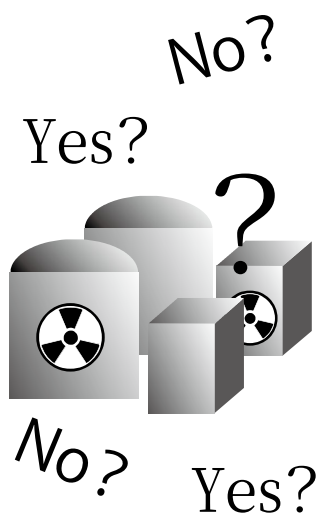
個人レベルで考えられるエネルギー対策は?

エネルギー問題は個人のレベルで考える時代になったといえます。

震災後、原子力への安全神話が崩壊するも地域の経済と密着している現在では「再稼働」するもしないも、どちらの言い分も理解できるため複雑な心境です。

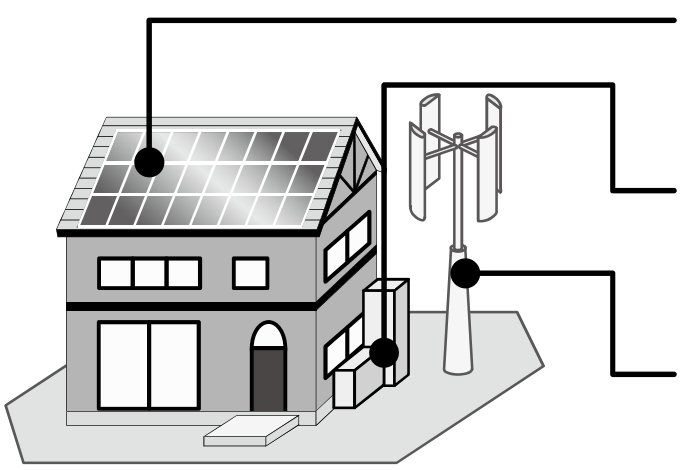
そのような中での東電による値上げ等、実際に事業等で電力を必要とする人達には、計画停電も含め、死活問題にもなりかねません。

全ての電力を電力会社に頼るのではなく個人レベルで電力確保を考えると、1軒1軒は小さくとも、太陽光や燃料電池など普及が進むことで家庭用電力分を事業用に回せるなど弊害「原発稼働による様々な不安」、「計画停電」を少しでも減らす事が出来るのではないでしょうか。



「家庭レベルからのエネルギー対策」

自宅で発電した電気をそのまま使うには、現在の方法はまだ改良の余地が必要です。しかし各家庭での自家発電が普及することで、地域全体での電力会社からの供給必要量を下げ、経済活動で必要な電力を確保することに貢献でき可能性があるという事です。経済の活性と家庭電力の確保双方にメリットが。



①太陽光発電システム

設置には費用がかかりますが長い目で見た場合、自家発電としては最も効率的な方法の一つです。遊休地利用も検討できます。

②燃料電池等の自家発電

ガスを原料に自家発電を行い、排熱でお湯も作るコージェネレーションシステム。まだまだ発電量は少ないですが、期待できる発電方法。

③風力等の自家発電

風さえあれば24時間発電が可能風力発電は一般家庭でも導入しやすい小型タイプが増えてきています。

「自己防衛が重要!」

津波の被害や、地震災害等
その瞬間も、難を逃れたあとも、重要なのは自己は自己で防衛しなければならない、ということが重要です。
エネルギーの問題もそろそろ真剣に各個人のレベルでも考えることが必要です。

電気＝自家発電、蓄電池、発電機
ガス＝炭やマキなど
水道＝雨水の確保、浄水器
ライフラインについて自己防衛を考えてみましょう!